盛岡タイムス
11月27日
2007年（平成19年）
（火曜日）
（昭和44年12月1日第三種郵便物認可）
第13197号
発行所
盛岡タイムス社
〒020-0015 盛岡市本町通3丁目9番33号
電話(019)653-3111(代)
FAX(019)622-5119
(019)623-8204
日刊 購読料月極1,800円
ホームページ http://morioka-times.com Eメール hensyuu@morioka-times.com

市民が「ござ九」の壁塗り直し

盛岡市の保存建造物にもなっている同市紺屋町のござ九で26日、市民ボランティアらによる壁の塗り直し作業が始まった。作業に当たったのはNPO法人もりおか中津川の会のメンバーら10人で左官職人の指導を受けながら風化した壁の漆喰（しっくい）をはがした。

建築から170年以上が経過したござ九の建物は中津川沿いの風景とのコントラストが素晴らしく訪れる観光客も多い。戦中に敵機から目立たないように黒くぬられた土蔵の壁は、長い歳月の間に心ない人たちによって表面に無数の落書きが目立つようになった。

参加者は脚立に上り、手にした金属製のへらで落書きされた漆喰をきれいにはがしていった。場所によってははがれにくくなっている個所もあり、左官職人から教わりながら丁寧に作業が進められた。古い漆喰がはがされるにつれ、下からは歴史を感じさせる土壁が表れ、参加者たちも保存状態の良さに驚いていた。

ござ九当主の森幸彦さんは「高度成長期のころには新しくしようかと迷ったこともあったが、先祖との接点と考えてこれまで守ってきた。作業をしてくれるのは非常にありがたい。何よりも盛岡を美しくしようといろいろと感じてくれるその気持ちがうれしい」と作業をじっと見守った。

同会では今回、盛岡市の公募型協働推進事業による支援と左官職人の協力を受け、3日間かけて落書きされた壁の表面を削り落とし、新たに漆喰を塗る作業を行うこととなった。

同会の佐藤晴久副理事長は「歴史を物語る上で壁が何で黒かったかということを知ってもらうことも大切だが、盛岡への観光客も増える中でこのまま落書きを放置した姿はよくない。少なくともきれいにしなくては」と今回の作業に当たった経緯を話した。

落書きされた漆喰が参加者によってはがされるござ九の土蔵壁